



国指定史跡

おお ほら かい づか

# 大洞貝塚



たこ の うら かい づか  

# 蛸ノ浦貝塚



しも ふな と かい づか  

# 下船渡貝塚



おおふな と しきょういく いん かい

大船渡市教育委員会



ほぞんじょうたい  
保存状態がよいものは、種類がわかるんだトン 〓

分厚く積み重なる  
貝殻がある遺跡

かいづか  
貝塚ならではの出土品が見つかる特別な遺跡なんだトン 〓



海や湖等、貝を多く  
利用した地域の集落跡

おしえて！おおふなトン

# 貝塚って どんな 場所？



人や動物の骨が  
見つかる場所

イヌと弓矢が登場し、主に  
槍を使った旧石器時代とは  
狩りの方法が大きく変わった  
んだトン 〓



食べかす等を  
すてた場所！？

あらゆるモノの  
お墓のような場所

使い終わった道具や、なくなった人の  
魂を神の世界へ送る場所と考えられて  
いるんだトン 〓



食べかすだけじゃなく、な  
くなった人の骨も見つかる  
んだトン。ただのゴミすて  
場ではなさそうだトン 〓





ここがみどころ！

# おおほらかいづか 大洞貝塚

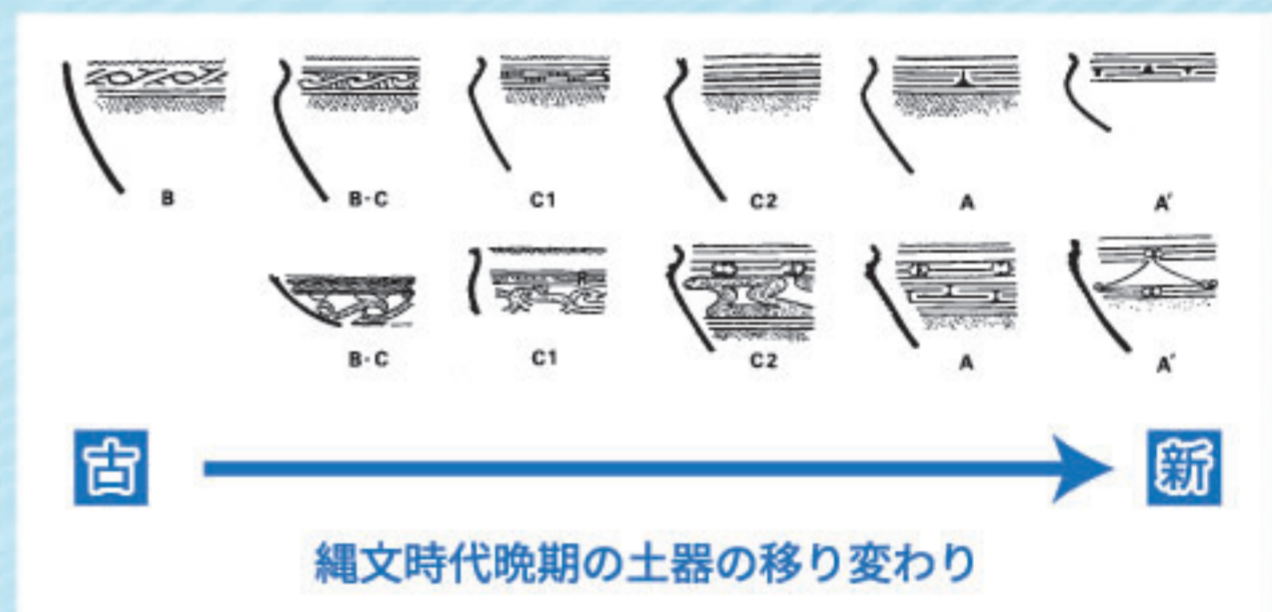
国指定  
史跡

所在地 大船渡市赤崎町字大洞  
指定 2001（平成13）年8月13日  
立地 標高31mの丘陵  
年代 縄文時代晩期中心  
（約3,000年前から2,200年前）



大船渡湾奥の東側、海から少し離れた場所に、「大洞式土器」で全国に名をはせる貝塚遺跡があります。ここ大洞貝塚は、「水産のまち大船渡」のルーツとも言える縄文時代の漁師のムラだったのです。

縄文時代晩期の東北地方を中心とする広い範囲で流行した「大洞式土器」は、大洞貝塚の発掘調査に参加した山内清男博士によって名づけられました。縄文時代は、地域や時期によって土器の形や模様等の特徴が異なります。この特徴を明らかにし、年代の指標とすることに成功したのが、山内博士でした。



縄文時代晩期の土器の移り変わり

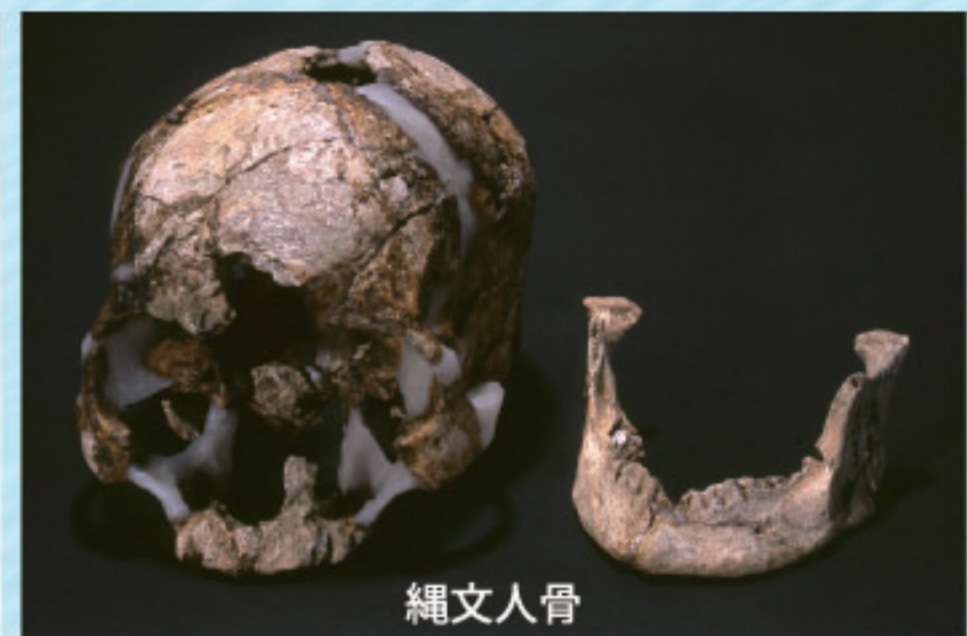


さまざまな漁の道具

ツリバリ、モリ、ヤス等があり、柄に固定するための黒い接着剤が残るものもあります。



現代と同じしくみのモリ



縄文人骨

大洞貝塚では、高度な技術がうかがえる漁の道具が見つかります。魚が獲れなくなると、狙う獲物にあわせて工夫を重ね、道具を進化させてきました。素材は動物の角や骨で金属ではないものの、しくみは現代と同じ道具もあり、水産技術のルーツと言えます。

また、大洞貝塚では20体以上の縄文人骨が見つかり、その中には、耳にコブができる病気の痕が見られます。冷たい水の刺激が原因とされ、大洞の縄文人は、海の仕事を熱心に行っていたと考えられます。

ここがみどころ！

たこのうらかいづか  
**蛸ノ浦貝塚**

国指定  
史跡

所在地 大船渡市赤崎町字蛸ノ浦  
指定 1934（昭和9）年1月22日  
立地 標高35mの丘陵  
年代 縄文時代前期後半から中期末中心  
（約5,500年前から4,000年前）



丘の上に平坦な場所があり、その周囲に貝層が広がります。全体で直径約100m、厚さは最大2mにもなり、日本でも屈指の大貝塚と考えられています。

砂地にすむアサリやヒメシラトリガイ等のほか、岩場にすむマガキ・イガイ・スガイ等をとっていました。他の貝塚よりも岩場にすむ貝を多く利用していたことが蛸ノ浦貝塚の特徴です。

また、マグロが多くとれた時期もあったようで、大船渡湾の入口にある立地を生かし、安定した食料を得ていたことがうかがえます。

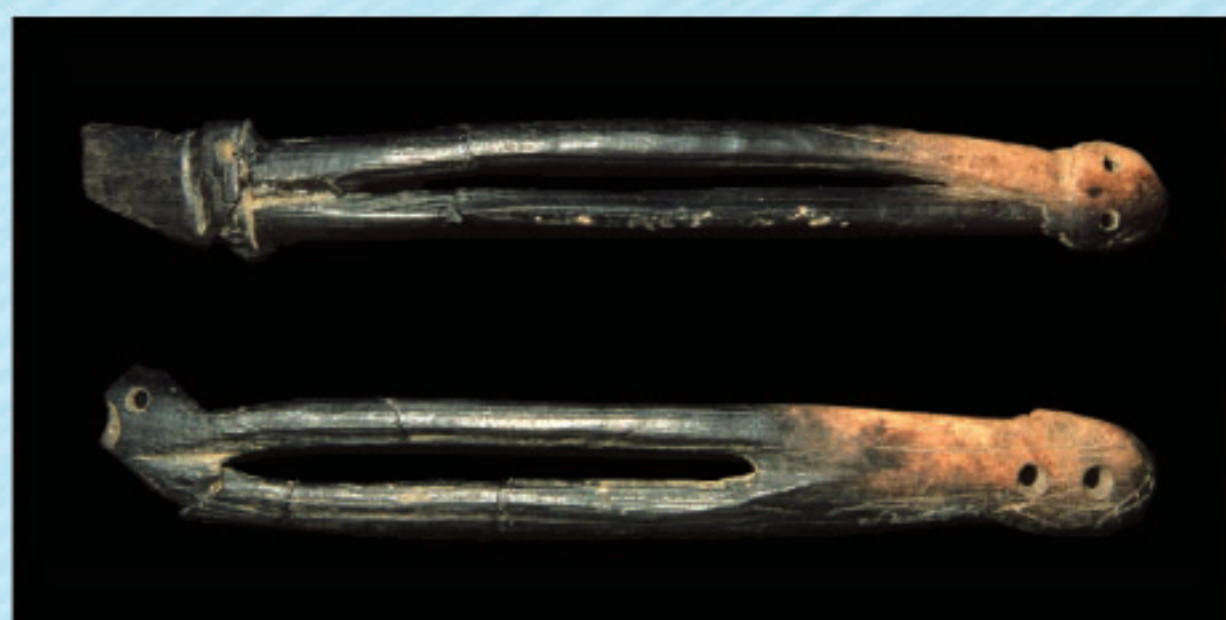


蛸ノ浦貝塚の貝層（大船渡市立博物館常設展示）



蛸ノ浦貝塚から見つかった釣針・アクセサリー（早稲田大学會津八一記念博物館蔵）

蛸ノ浦貝塚で本格的な発掘調査が行われたのは、1957（昭和32）年の早稲田大学によるものでした。縄文時代前期の終わりから中期の終わり頃の土器や石器、骨角器が出土しています。炭になった木材が散乱する住居跡1棟も見つかっており、火事で焼け落ちたのかもしれませんが。



いぶされたアクセサリー（早稲田大学會津八一記念博物館蔵）

ここがみどころ！

しも ふな と かい づか  
**下船渡貝塚** 国指定  
史跡

所在地 大船渡市大船渡町字宮ノ前  
指 定 1934（昭和9）年1月22日  
立 地 標高20mの丘陵  
年 代 縄文時代後期中頃から晩期中心  
（約3,500年前から2,200年前）



大船渡湾の西側、国道45号に面する開けた場所に位置しており、高台からは大船渡湾を一望することができます。1960（昭和35）年のチリ地震津波の翌年、道路の高台移転のため発掘調査が行われました。

発掘調査では、4体の縄文人骨のほか、イヌの骨も見つかっており、家族の一員として手厚く埋葬されていました。

貝層の厚さは、最大で120cmほどで、アサリ等の貝を中心に、シカ、イノシシ、クジラ、マグロ等の動物や魚の骨が見つかり、さまざまな獲物を求めて狩りや漁を行っていたことがわかります。



イヌの骨（大船渡市立博物館常設展示）



石の矢じり



動物や魚の骨・角



朱で彩られていた土偶



シカ角製の腰飾り（大船渡市立博物館常設展示）  
シカの角が枝分かれする部位を利用しています。写真の横方向に貫通した孔があり、紐を通すことができるつくりになっています。

髪の毛を立体的に表現したと考えられている土偶で、頭に朱色の痕跡が見られます。

朱色で彩られていた土偶や、曲線的な模様が彫られた腰飾りが見つかります。縄文時代の後半になると、着飾ることや、まじない等に使われた道具が増え、縄文人の技術力の高さと精神性がうかがえます。これらは、特別な人が身に着けたのかもしれない。

# まだまだある！大船渡の貝塚

## みやのかいづか 宮野貝塚

市指定  
史跡

所在地 大船渡市三陸町綾里字宮野ほか  
指 定 1978 (昭和 53) 年 2 月 10 日  
立 地 標高 25 ~ 40m の丘陵  
年 代 縄文時代前期 ~ 晩期中心  
(約 6,000 年前 ~ 2,200 年前)



縄文土器



貝層から見つかったマグロの骨

宮野貝塚は、三陸鉄道の綾里駅前に広がり、丘陵の南側の斜面を取り囲むように A ~ F 地点の貝層がつけられました。

貝層は、イガイ等の岩場にすむ貝が多く、マグロやカサゴ等の骨のほか、保存状態のよい縄文人骨も見つかっています。縄文時代以降の土器等も発見されており、長期にわたり、人々が利用してきたことがわかっています。



ひざを折りたたみ埋葬された縄文人の骨

## はせどうかいづかぐん 長谷堂貝塚群

所在地 大船渡市猪川町字長谷堂ほか  
立 地 標高 20m の丘陵  
年 代 縄文時代早期 ~ 晩期中心  
(約 9,000 年前 ~ 2,200 年前)

コハクや黒曜石のほか、アスファルトが入った土器等、市内では入手できないものが多く見つかっており、交易が行われていたことがわかります。市内で最古の縄文土器も見つかり、縄文時代、弥生時代、古代にわたり、長い間人々が暮らしてきました。



住居の炉跡



コハク



ヒスイ製玉

黒曜石製矢じり

アスファルト入り土器

人面付き軽石製品 ※1

## ののまえ 野々前貝塚

所在地 大船渡市三陸町綾里字野々前  
立 地 標高 40m の丘陵  
年 代 縄文時代晩期中心  
(約 3,000 年前 ~ 2,200 年前)



野々前貝塚の人骨出土状況  
縄文時代のお墓のあり方を知るための貴重な資料です。



復元された1号人骨の顔  
おおよそ 40 ~ 59 歳くらいの男性と推定されています。

保存状態のよい縄文人骨が多数見つかり、野々前縄文人の顔が復元されています。

## うちだかいづか 内田貝塚

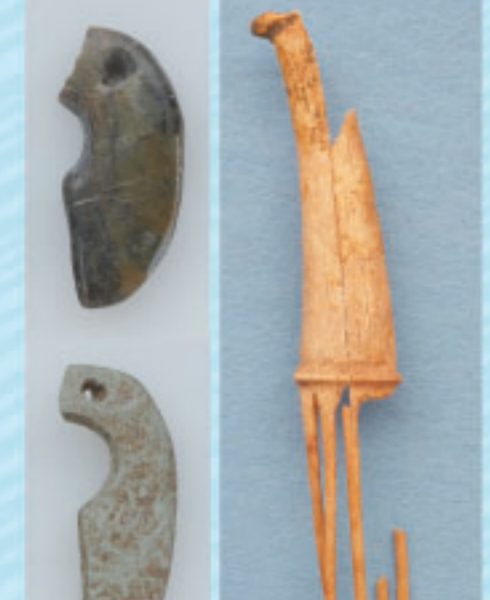
所在地 大船渡市末崎町字内田  
立 地 標高 36 ~ 45m の丘陵  
年 代 縄文時代前期中心  
(約 6,000 年前 ~ 5,000 年前)



広がる魚や動物の骨 ※1

大船渡湾に面する高台にあり、岩場にすむ巻貝や砂地にすむアサリが多く見つかっています。

※1 写真提供：(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター



石製耳飾り ※1

シカ骨製くし ※1

大船渡湾に面し、発見例の少ない時期の土器や、シカの骨製のくしが見つかっています。

## 大洞ふれあい交流館



大洞貝塚に関する解説パネル等を展示

アクセス 三陸鉄道陸前赤崎駅前、駐車場あり  
住所：大船渡市赤崎町字大洞 111-2  
※夜間は施錠しています

## 大船渡市立博物館



大洞貝塚・蛸ノ浦貝塚・下船渡貝塚の資料等を展示  
三陸復興国立公園 碁石海岸内に立地

開館時間 9：00-16：30（入館受付16：00まで）  
休館日 月曜日（祝日・休日の場合は翌日）、年末年始等  
アクセス 大船渡碁石海岸ICから車で約10分、駐車場あり  
住所：大船渡市末崎町字大浜 221-86  
TEL 0192-29-2161